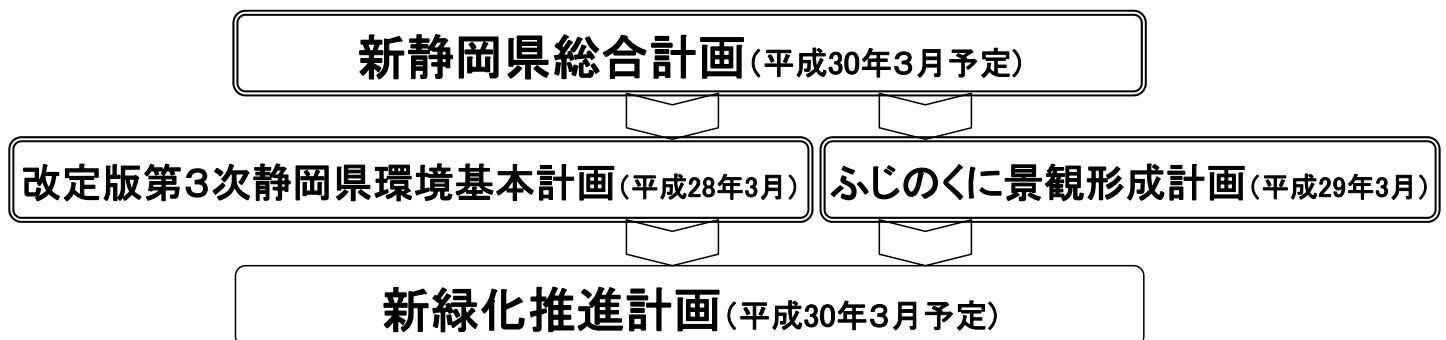


新しい緑化推進計画の 目指す姿と基本方針

計画の位置付け

「静岡県総合計画」を基本とし、環境の政策をまとめた「静岡県環境基本計画」、景観形成の政策をまとめた「ふじのくに景観形成計画」と方向性を一にして、その重要な要素となる緑化に関する分野の方針及び方策を定めた「個別計画」である。



計画期間

平成30年度から平成39年度までの10年間とする。

新計画の必要性

高度経済成長以降、都市部の急激な開発により身近な花と緑が失われたことから、これまで本県では緑化率の向上に向けた政策を展開し、一定の成果を得てきた。

近年の、暮らしの空間にやすらぎやうるおいを求める人々のニーズの高まりに対応するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップの開催を控え、国内外からの来訪者の増大が期待される中、人々を緑でもてなす空間を創出するには、**従来の花と緑の量の確保に加え、高い技術・デザイン力により、それらの美しさが一層引き立つ良質なまちづくり**が求められる。

次期総合計画の基本理念の実現に向け、「和」や「美」を尊重し、本県ならではの花と緑が映える暮らしの空間を創出するため、今年度誕生した新生グリーンバンクと協力し、新たな緑化推進計画を策定して、社会総がかりで静岡県の緑化を推進する。

ありたい姿にするために必要なこと

1 住民の視点

- ・多くの人が行き交う駅前や沿道などの公共施設や地域のシンボルとなる場所で、積極的に花と緑による美しい景観づくりを進めること。
- ・花と緑のある場所に限らず、人々の生活や活動の場において、緑に親しみ、触れ合う機会を増やすこと。
- ・管理の問題から、天然芝の公園やグラウンドが荒れていたり、学校グラウンドや運動場の天然芝化に躊躇するなどの実態から、管理手法の普及やシステムづくりを進め、天然芝化を県内に普及すること。

2 来訪者を迎える視点

- ・オリンピックなどの国際イベントの開催を控え、地域の魅力を発信するチャンスであることから、世界各地からの来訪者を花と緑でもてなす機運を醸成すること。
- ・観光地や車窓から見える沿道の花壇や街路樹が周囲と調和した景観づくりを進めること。

3 活動者の視点

- ・高齢化と会員数の減少により弱体化している花の会・森づくり活動等のボランティア団体の活性化を図り、花と緑を維持管理する担い手を増やすこと。
- ・緑の募金や寄付など緑化への支援に加え、県民や民間事業者の積極的な緑化活動への参加を促す仕組みを普及すること。
- ・省力で楽しく緑化に取り組めるような新技術、新品種の活用を普及すること。 2

計画の目指す姿と目的

目指す姿

花と緑が織り成す美しい庭園県・しずおか

目的

社会総がかりの緑化活動を推進することで、暮らしのまち並みに花と緑を美しく保ち、住む人が誇りと愛着を抱き、訪れる人の感動を呼ぶ、本県ならではの魅力ある暮らし空間を創出する。

計画の基本方針

①花と緑を慈しむ文化の創造（緑と触れ合う）

- ・学校グラウンドや民間・公共施設等に花や芝生を普及し、緑のある安らぎの場を拡大する。
- ・スポーツターフの開発・普及により、県民が天然芝の上でスポーツを楽しむ機会を増大させる。

②花と緑による地域景観の質向上 （花と緑のまちづくり）

- ・多くの人々が目にする駅前や観光地周辺など地域のシンボルとなるおもてなし空間において、花と緑による質の高い景観を創出する。

③社会総がかりの緑化活動（みんなで取り組む）

- ・緑化の知識を普及し新たな素材や技術を活用することで、省力で見栄えよく緑化を促す仕組みをつくり、県民や事業者への参加を促進する。
- ・子どもの頃から、花と緑を育て触れ合う機会をつくることで、緑化活動への参加意識を醸成する。